

式 辞

「初心を忘れず、チャレンジを恐れず」

学 長 鈴 木 衛

晴れて東京医科大学に入学された医学科120名と看護学科94名の皆さん、誠におめでとうございます。東京医科大学の新たなステージを担う皆さんの入学を、ご来賓、ご親族の皆様、職員一同とともに祝うことができるのは大きな喜びです。

東京医科大学の源流は、学校の方針を巡って経営陣と対立し退学した医学専門学校の学生約450名と、支援した学祖高橋琢也先生によって1916年9月に設立された東京医学講習所です。その後、当時の順天堂医院の支援も得て東京医学専門学校に、そして戦後すぐに東京医科大学へと発展し、今年創立102年目を迎えました。学生自身の考えや行動が創立に大きく関わったという歴史から「自主自学」を建学の精神としています。

本学は東京の中心にあって、世界の最先端の情報が集まり、様々な文化や芸術に触れられる環境にあります。その環境を大学生活に生かすのは自分次第ですので、勉学以外にも目標を持ち、有効に過ごしてください。将来得意な分野で実力を発揮し挑戦できるよう、自らの能力や特性を見つめ直し、力を蓄えておくとよいと思います。

東京医科大学はクラブ活動が盛んで、できれば参加して協調性、社会性、コミュニケーション力などを培ってほしいと思います。ただ、あくまでも勉学が最優先ですので、この点に留意し、基礎から積み上げ、臨床実習で十分な力が発揮できるような学習を心がけてください。医学部の教科は想像以上に多く、進級査定も厳しいのが現実です。初心を忘れず勉学と自己研鑽に努め、医師、看護師の国



式辞を述べる鈴木学長

家試験に全員で合格して日本の医療を支えてください。皆さんの未来はこの価値ある国家資格を得ることで無限に広がるものと確信しています。

本学創立後の100年は、世界にとって激変の時代でした。日本も悲惨な戦争などを経験しましたが、急速に復興を果たし、医療面では皆保険制度を確立しました。この優れた医療制度を現場から支えているのは、医療人の献身的な働き以外にありません。しかし、他の先進諸国と比べてその数は十分ではなく、社会は皆さんの一刻も早い活躍を待っています。

医療職の基本は病気を治す、患者さんを支えるなど、目的が明確で純粋な仕事ですが、日本では超高齢化と少子化が加速し、新たな社会構造への対応が必要となってきました。チーム医療、介護、在宅、地域連携、心のケア、さらにIT化への対応など医療人に求められる役割は多様化しています。本学の校是は、「正義・友愛・奉仕」ですが、これはいかなる医療現場においても尊重すべき精神で

あると考えます。高い倫理感と使命感を持った医療人の育成は、本学にとって最重要課題で、一昨年策定しました本学の中長期計画において我々のミッションを「患者とともに歩む医療人を育てる」と謳いました。この意識のもとに職員一丸となって皆さんを支援していくつもりです。

グローバル化とテクノロジーの急速な発達、文字通り世界を限りなく狭くしています。ぜひグローバルな視点から医療や看護を考えてほしいと思います。特に留学は視野と交流範囲を広げ、皆さん自身と大学の

発展へとつながります。英語力と日本や海外の文化を身につけ、日本の優れた点を世界に向けて発信することも若い方々の役割と考えます。

医療・福祉という崇高で価値ある仕事に携わることを決意した皆さんは、人生で最高に輝く第一歩を踏み出したといえます。次の100年に向けて順調に歩み始めた東京医科大学の輝かしい未来を、共に創っていきたく思います。皆さんが実り多い学生生活を送り、医学と看護学の世界を牽引してくれることを心から願っています。